

いしかりのこれからのまちづくり 30年後のまちのイメージ

まちづくりのミッション

30年後の『まちの持続』

「このまちに住み続けたい」
「このまちに住みたい」と思える
魅力あるまちであり続ける

「住み続けたいまち・住みたいまち」は、“まち”のあるべき姿と、そのまちで活動し、そのまちをつくっていく“ひと”のありたい姿や意識があるまちです。

いきいきとそこで暮らす市民によって魅力あるまちがつくれ、また、市民がまちづくりに深くかわかっていく過程において、いしかりに対する誇りや愛着が高まっていくまち、それがさらにまちの魅力の向上につながっていく、そんなまちを目指します。

※1 コミュニティビジネス：市民等が主体となって、地域が抱える課題をビジネスの手法により解決し、その活動の利益を地域に還元するという事業のこと

※2 低炭素：地球温暖化の原因とされる二酸化炭素の排出を、現状の産業構造やライフスタイルを変えることで低く抑えること

※3 ライフスタイル：生活の様式・営み方。また、生態・価値観・習慣などを含めた生き方

目指すまちの姿（将来像）

創造

文化、交流、
創造するまち

絆

絆や人のつながりを
大切にするまち

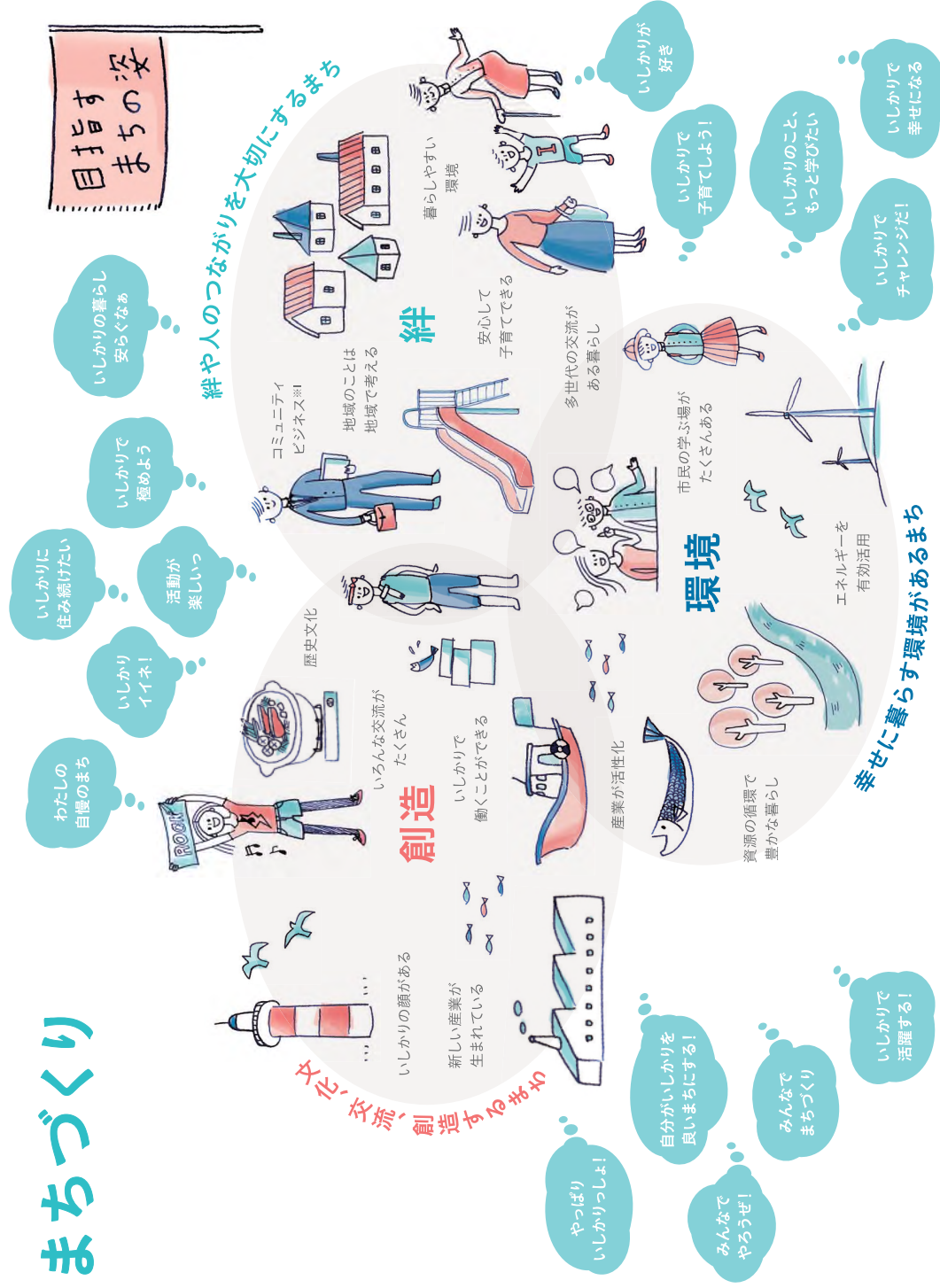
環境

幸せに暮らす
環境があるまち

歴史・文化が市民に脈々と受け継がれ、地域への愛着につながり、市民が新しい産業や魅力、価値を創造するまちを目指します。

地域で暮らすいろんな世代の人が、互いに支えあいながら、みんなが安心して幸せに暮らすことが出来る絆や人のつながりを大切にすることを目指します。

優れた資源を有効に活用し、市民の暮らし・学び、産業、低炭素※2などの豊かなライフスタイル※3や多様性を支える環境があるまちを目指します。



石狩PRIDE

プライド

いしかりへの愛着、誇り、そこでの幸せな暮らし

目指すまちの姿（将来像）の実現に向けて、市民とともにまちづくりを進めることで育まれていく愛着や誇り（石狩PRIDE）を持った市民の姿です。市民が、まちの自然や文化、魅力に気づき、愛着や誇りを持って暮らしている姿がたくさんあるまちを目指します。

石狩市が実現されることによって石狩PRIDEに！

市民がまちづくりに関わることで輝けるまちに！

5つの戦略目標

市民の「健康」と「結束」と「結束」でいしかりを動かす

30年後の目指すまちの姿(将来像)を実現するためには、まちづくりの主役である市民一人ひとりの健康が何よりも大切です。さらに、市民が結束し、自ら進んで取り組むことが総合計画を動かしていくことにつながります。

そのため、市民の理解・共有を重視し、特に重点的に市民と協働で進めていく5つの戦略目標を掲げます。

この5つの戦略目標は、これからのいしかりが取り組むまちづくりの優先事項や戦略性を示すものであり、市民の結束なしでは決して進まないものです。

戦略目標 1	新現役世代※1がいしかりで活躍する
戦略目標 2	いしかりの子育て力をさらに発揮する
戦略目標 3	いしかりの資源からモノやしごとを創り出す
戦略目標 4	いろんないしかりの顔をつくる
戦略目標 5	いしかりが誇る人や文化を育てる

※1 新現役世代：審議会(分科会)の中で、知識や技能、経験を有する高熟者を「高熟者」ではなく、「新現役世代」と呼ぶこととした

この5つの戦略目標は、まちづくりディスタクションや高校生ワークショップ、また、審議会での議論の中でいただいた多くの市民意見をもとに、いしかりが目指すまちの姿の実現のため、重点的に取り組まなければならないものを掲げたものです。

主な市民の意見(抜粋)

創造(そうぞう)

- 日本から若者を集める新しい産業を創り出す。
- 子どもたちにいしかりを知ってもらおう。子どもたちがいしかりについて知らないから郷土愛が育たず、流出する原因になっている。
- 今ある文化を大切にしながら、新たな文化を市民が創る。など

絆(きずな)

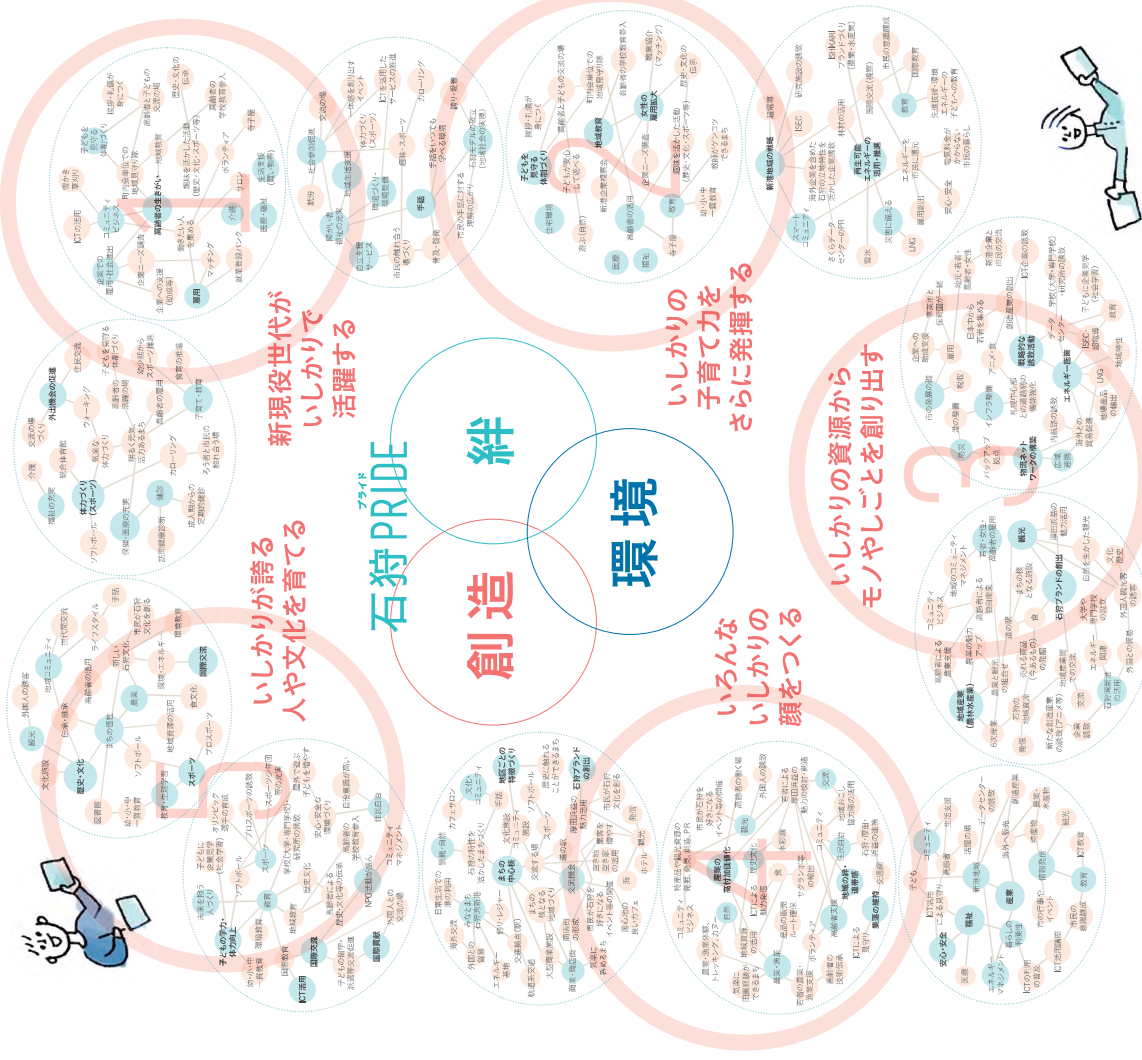
- 人と人のふれ合いが優しいまちであってほしい。
- 子・親・新現役世代が一緒に楽しめる場所づくり。近所の大人が子どもに得意な事を教えたたり、遊びを伝えたたり、また、苦しいを語ったりする場を設ける。
- 地域で新現役世代が子ども見守り隊を作り、ネットワーク化する。など

環境(かんきょう)

- 自然の多い地域に住みたい。川・海の特性、景観をもっと活かしたまち。
- 新港の企業と農林水産業を結びつけ、商品開発に力を入れ、石狩ブランドを強化する。
- 世界と競争ができる環境エネルギー都市づくり。など

石狩PRIDE(プライド)

- いしかりを全国にPRできるものがほしい。
- 住みたい・働きたい・いしかりが自慢できるまち。
- 好きな市民が多いまち。など



知識や技能、経験のある新現役世代を「人財^{※2}」として捉え、地域を元気にする
中核として生涯健康で活躍するまちを目指します。

戦略目標の背景

急速な少子高齢化が進展する社会情勢の中、第1次ベビーブームに生まれた団塊の世代(1947年(昭和22年)～1949年(昭和24年))が皆65歳を超え、高齢者人口が大幅に増加し、高齢社会に拍車がかかっています。

平成27年10月1日時点の高齢化率約30%が、令和2年10月1日時点で約34%になっており、約4%上昇しています。今後高齢者が増加していく見込みの中、医療や介護などの社会保障費が増えていくことが懸念されます。

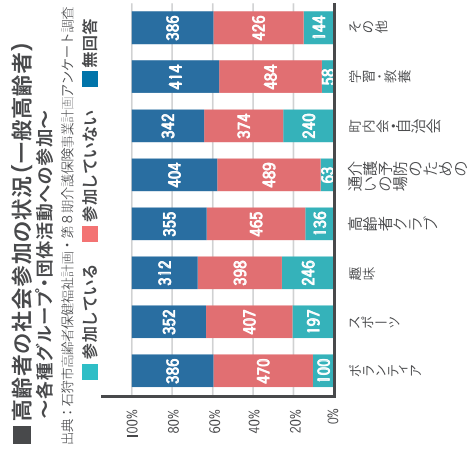
一方で、高齢者といっても、知識や技能、経験を有し、現役で活躍できる新現役世代が多くおり、地域の中核として、就業やボランティア活動など地域社会に関わりを持つことが、まちの活性化につながるものと考えます。

まちの「人財」である新現役世代が、地域社会に参加し、同じ気持ちの仲間と活動するとともにつながりを深め、やりがいを持てるまちが求められています。

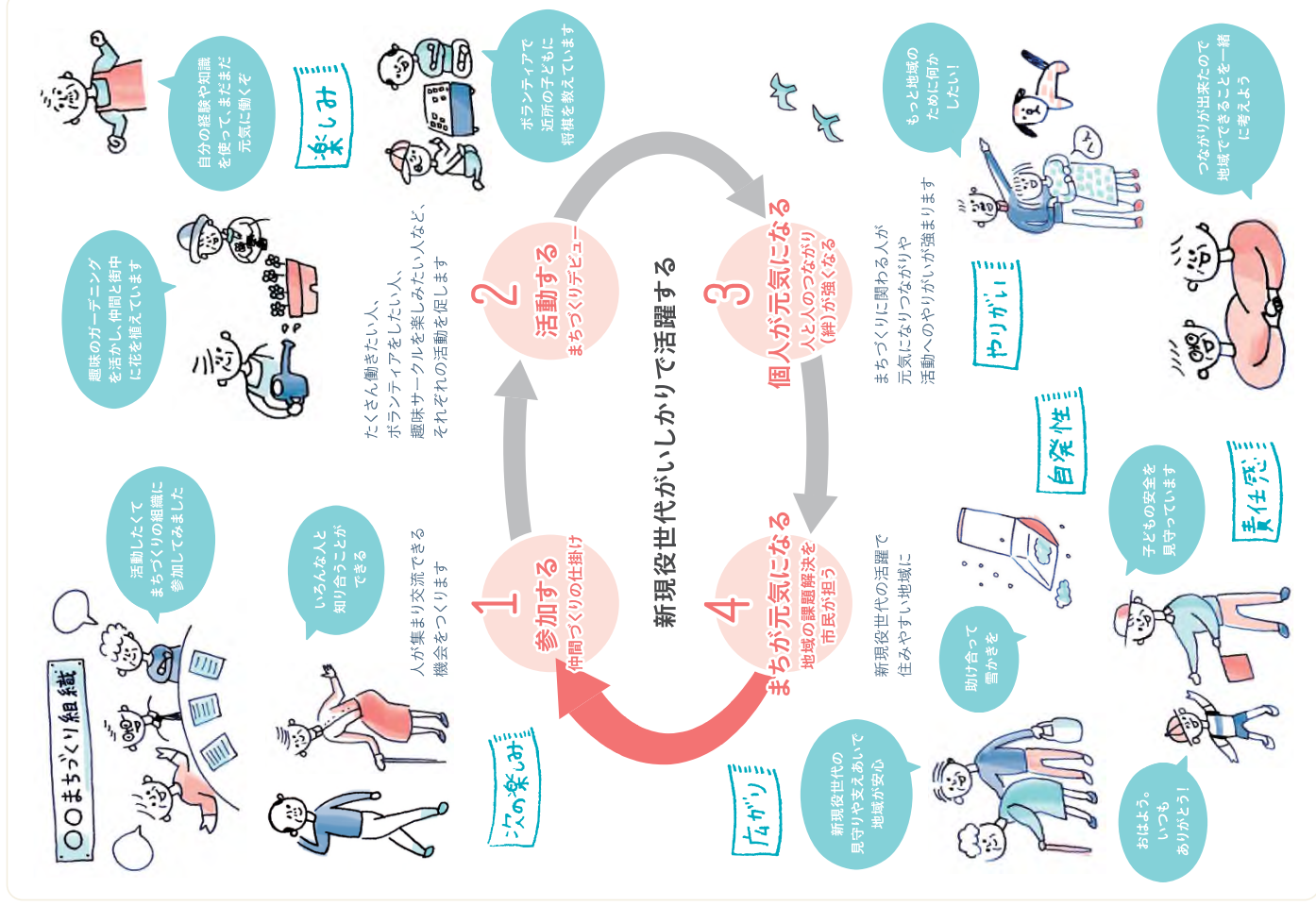
戦略目標のねらい

- 新現役世代が地域社会でやりがいを持つ
- 新現役世代がまちの原動力^{※3}になり、生涯活躍する
- 新現役世代が元気になる、そして、まちも元気になる

※1 新現役世代：審議会(分科会)の中で、知識や技能、経験を有する元元高齢者を「高齢者」ではなく、「新現役世代」と呼ぶこととした
※2 人財：様々な知識・経験を持っている人を、地域の活性化やまちづくりを進めるための貴重な「財産」と捉えた考え方
※3 原動力：物事の活動のもととなる力
※4 プロセス：物事を進める手順と過程。ここでは、戦略目標を進める取組の過程のイメージを示している



「囲碁体験」



地域全体で子育て家庭や子どもの育ちを支え、子どもが安全かつ安心して学び、健やかに育つまちを目指します。

戦略目標の背景

核家族化や都市化、地域のつながりの希薄化などにより、家族や地域の中で子育ての知恵や経験を共有することが難しく、子育てに周囲の手助けを求めにくくなっている状況があります。

そのような中、市ではこれまで子育て支援団体やNPO※1、子育てサークルなど多様な主体が協力しあい、親子同士の仲間づくりの場の充実や、子ども向けイベントの充実など、子育てしやすい環境づくりに取組んできましたが、平成25年に実施した、子育て支援に関するニーズ調査によると、子育てする中で、経済的な面以外に不安に思うことは、「しつけ・育児方法・接し方のこと」、「通学時等、子どもだけいるときの安全性」といったことへの不安が挙げられています。

地域の大人と子ども、子育て家庭と地域がつながる機会を増やすことで、子どもが安全かつ安心して学び育つことや、互いに支えあい、地域が幸せになることが求められています。



「音の遊び体験」

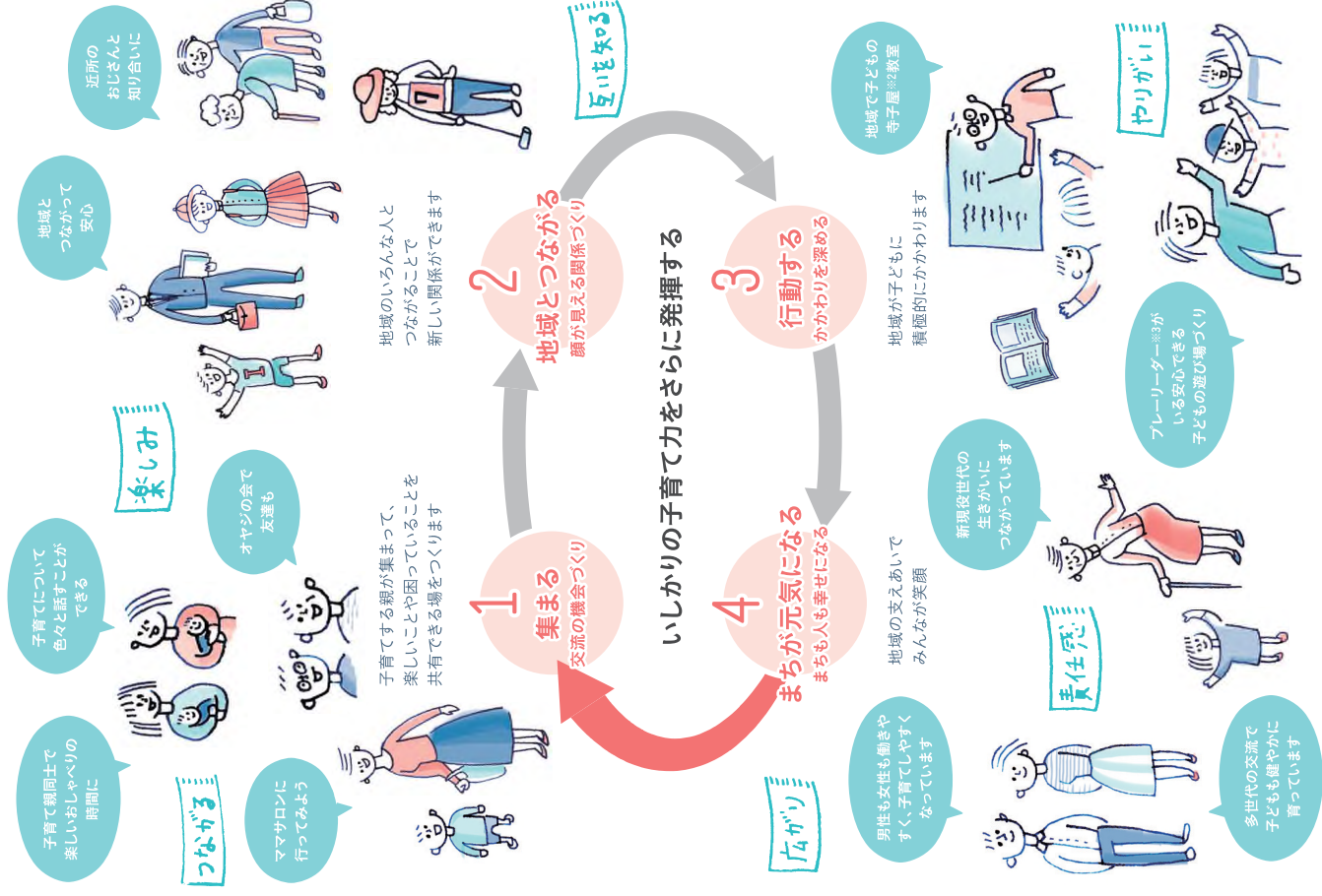
戦略目標のねらい

- 地域全体で子育て家庭や子どもの育ちを支える、見守る
- 男性も女性も安心して仕事と子育てを両立できる環境をつくる
- 支えあうことにより、幸せになる地域をつくる

※1 NPO：民間非営利団体（non-profit organization）の略称。様々な社会貢献活動（事業も含む）を行い、団体の構成員に対し収益を分配することを目的としない団体の総称

※2 寺子屋：地域人材を活用した放課後における学習活動や体験活動

※3 プレーリーダー：子どもと一緒に遊ぶ大人や若者たちのこと。子どもと一いっしょに思いきり遊んだり、遊びのきっかけを作ったり、子どもの興味や関心、遊び心を引き出す存在の人



いしかりの資源や魅力、また、石狩湾新港地域が持つポテンシャル^{※1}をさらに高め、新たな産業や地域ブランド^{※2}の創出など、地域経済が活性化するまちを目指します。

戦略目標の背景

人口減少・高齢化社会の到来による生産年齢人口の減少、農業・漁業などの地域間競争の激化、さらにはグローバル社会^{※3}への進展などにより、地域の産業や経済に、新しい価値を見出すことが重要になっていきます。

いしかりには、優れた自然環境や豊富な農水産物などの魅力、また、北海道と世界をダイレクトに結ぶ国際貿易港である石狩湾新港を核に600社以上の様々な分野の企業が集積する石狩湾新港地域を有しており、1次、2次、3次産業が揃っているまちです。このような条件を活かし、いしかりにあるたくさんの資源をさらに発掘し、創意工夫のもと地域の人や産業の連携によりブランド力を磨いていくことで、地域資源や魅力をさらに高めることが大切です。

そして、新たな産業や雇用、地域ブランドの創出といった新しい価値を見出し、さらに、地域内で循環しながら市民が支えていくことで、まちに活力を生み出していくことが求められています。

戦略目標のねらい

- いしかりならではの新たな産業、地域ブランドを創出する
- 新たな雇用を生み出す
- 地域経済を活性化し、地域内で循環させる

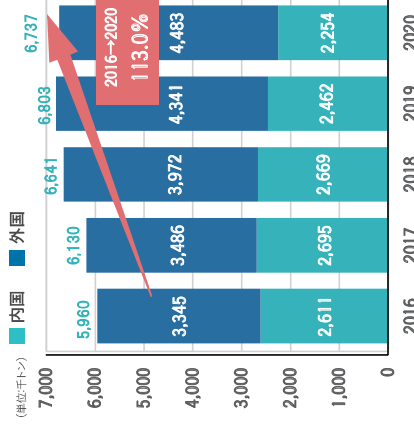
※1 ポテンシャル：潜在的な能力、可能性として持つ力

※2 地域ブランド：地域に存在する自然、歴史・文化、食、観光地、特産品、産業などの地域資源の「付加価値」を高め、他の地域との差別化したイメージ

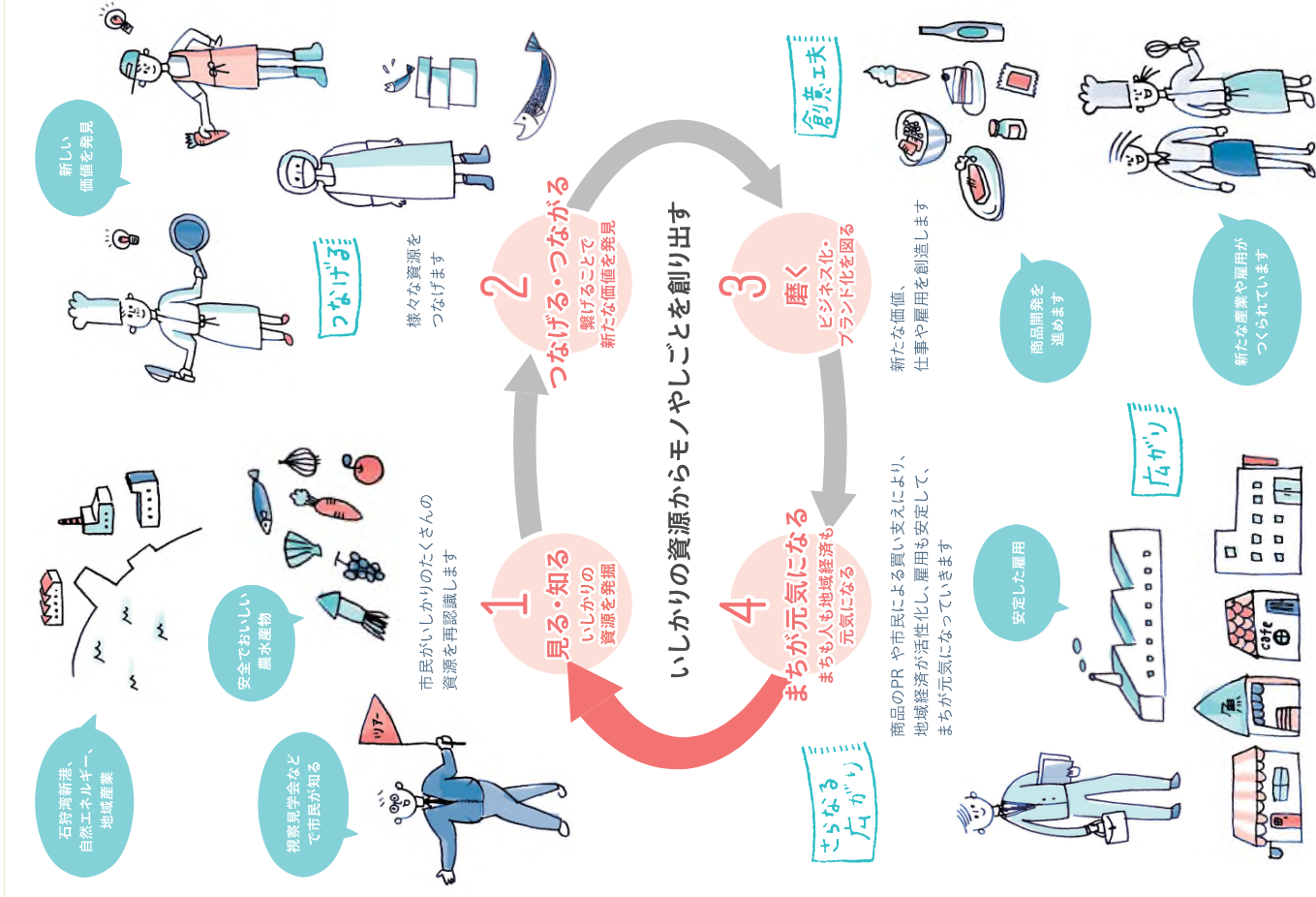
※3 グローバル社会：国や地域という垣限を超えて世界規模での結びつきが強くなる社会

■ 石狩湾新港 取扱貨物量の推移（内外国別）

出典：石狩湾新港管理組合



「石狩湾新港地域 農産企業」



市民がまちの魅力や地域の特徴を発見し、自らの手で「いいしかりの顔」として育てあげ、自慢できる（誇りとなる）まちを目指します。

戦略目標の背景

いいしかりには、地域の特徴や様々な魅力がたくさんありますが、まちの中心核やまちの顔となるイメージが弱いといった面が見られます。

市民協議会や総合計画策定審議会などにおいても、いいしかりへの愛着を持つ一方で、「いいしかりの中心がわからぬ」「いいしかり出身と堂々と言えない」「鮭以外にも名物はあるが自慢できない」といった意見が出されています。

地域ごとの特徴を活かしながら、いろいろなイメージを創り出し、「いいしかりといえればこれ」という顔をつくっていくことが大切です。

そして、市民がまちの魅力や地域の特徴を発見・掘り起こし、自らの手で育てあげ、いいしかりの魅力を自慢できる（誇りとなる）とともに、まちの魅力を広く発信し、道内・国内、さらには海外からの交流人口※を増やしていくことが求められています。



戦略目標のねらい

- 自慢できるいいしかりの魅力を育てる
- 観光や移住など新たな人の動きをつくる
- まちの様々な魅力を高め、賑わいをつくる

※1 交流人口：その地域に訪れる、交流する人のこと

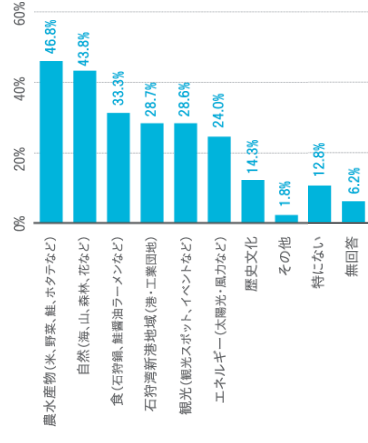
※2 コーディネーター：いろいろな要素を統合したり調整したりして、一つにまとめ上げる役割や職業

※3 語り部：地域の歴史や文化を解説したり、語り継いでいく人

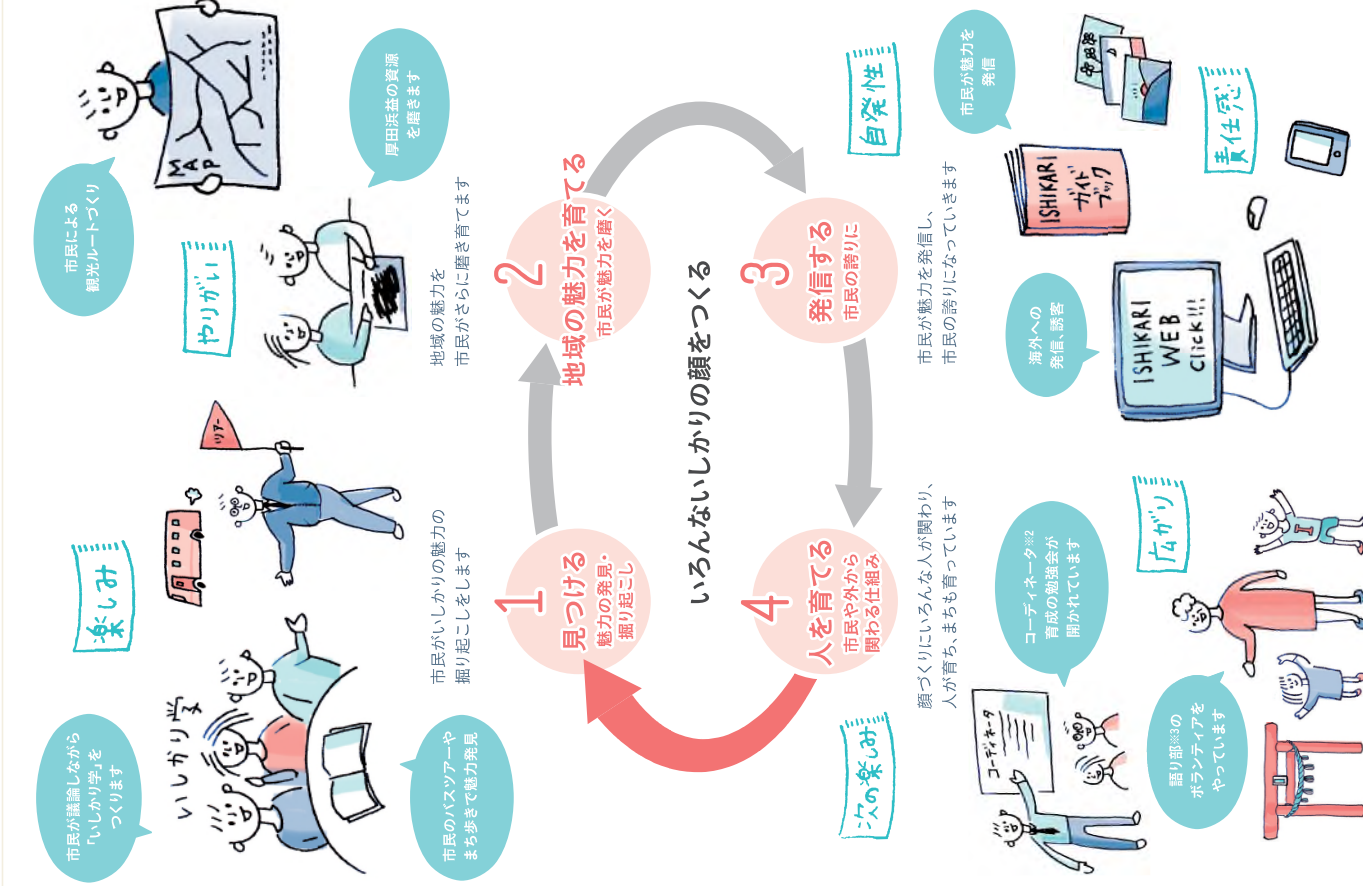
■ 石狩市の魅力アップのためにもっと活用

した方がよいと思う地域資源（複数回答）

出典：令和3年度市民意識に関するアンケート調査



「いいしかり浜サングラウンド2014」砂浜製作風景



市民一人ひとりが、健康に生涯を通じていきいきと暮らすため、誇りや愛着を醸成し、世界に羽ばたく人材や新しい文化が育つまちを目指します。

戦略目標の背景

市はこれまで、サケ漁・ニシン漁で栄えた石狩川河口や日本海沿岸地域、札幌市に隣接するベッタウンとして成長してきた花川団地、日本海側の物流・エネルギー集積の要である石狩湾新港と背後地の工業団地など、それぞれの地域でたくさんの歴史をつくりながら、いろいろな特色をもった人や文化を育ててきました。

今後、趣味やスポーツ、芸術・文化活動、自己の能力開発など、市民のライフスタイルや日々の暮らしを豊かなものにしたという欲求はますます多様化してくることが考えられます。

そのため、まちづくりの主役である市民自らが、日々の暮らしを豊かで楽しく、活気のあるものにする活動を行うことで、次の時代に向けた、新しい文化の醸成を進めていくことが求められています。

また、そういった活動の中で、人が育ち世界の様々な舞台で活躍するといった大きな実を結ぶことが期待されます。

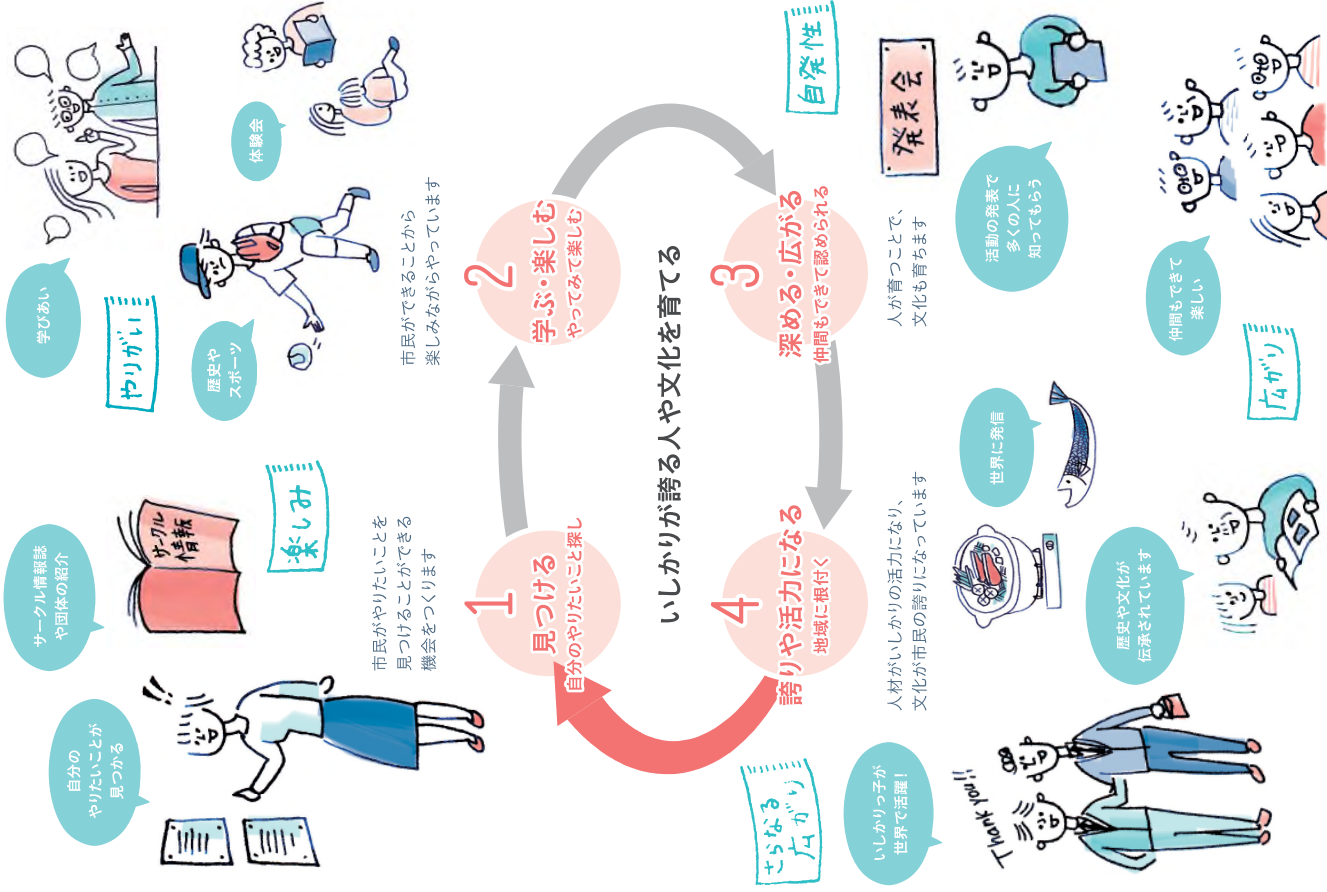
いしかりで育ったことに誇りを持ち、故郷に大きな愛着を持った「いしかり人」を育てていくことは、まちの大きな財産であり、次のまちづくりの原動力へとつながっていきます。



「ソフトボール教室」

戦略目標のねらい

- 市民の学びや楽しみの輪を広げ、いしかりの新しい文化を醸成する
- まちが人を育て、人がまちの誇りになる循環の仕組みをつくる
- 国際感覚豊かな人材を育てる



■ 自己の充実や生活向上のために普段学んでいること（継続回答）

出典：令和3年度市民意識に関するアンケート調査

